

キャンパス点描

お茶の水女子大学の新しい寮「お茶大SCC」が 2011年度グッドデザイン賞(住宅部門)を受賞

2011年3月に小石川寮のとなりに完成した新寮「お茶大SCC」(お茶の水女子大学 Student Community Commons)が、グッドデザイン賞(住宅部門)を受賞しました。

グッドデザイン賞は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度で、世界でも有数の歴史と実施規模を誇るものです。

「お茶大SCC」は、大学院人間文化創成科学研究科元岡展久准教授、鈴木杏理さん(大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ライフサイエンス専攻)、河野泰治アトリエの共同による基本設計にもとづいて建設されました。

「お茶大SCC」は学生が共に生活し、共に成長する場所として設計された新しいルームシェア型の学生寮です。

個性豊かな学生たちの人間関係の中で、自立性と協調性をもった人格を育む場所として、個室と共有スペースを兼ね備えた「ハウス」が整備されました。

その「ハウス」を単位とし、1つのハウスに5名の学生が生活するという新しいタイプの学生寮です。充実した寮生の支援のプログラムも魅力となっています。

長い歴史を誇るグッドデザイン賞ですが、大学の学生寮が受賞



SCC 外観南東面

したのは、「お茶大SCC」を含めわずか2件しかありません。

審査員からは、「学生寮として、集団で生活することの社会的な意味を、平面計画に積極的に提案している点を評価したい」との講評をいただきました。



中央の共有スペースを囲むように個室が配置されているハウス

**GOOD DESIGN
AWARD 2011**

歴史資料館企画展「関東大震災とお茶の水女子大学本館 ～校舎焼失からの復興～」を開催しました

2011年10月1日より14日まで開催したこの企画展は、3月に発生した東日本大震災からの復興への願いを込めて、急遽、企画したものです。

本学の前身である東京女子高等師範学校は、かつて大塚ではなくお茶の水(現:文京区湯島)にありました。ところが、1923年9

月の関東大震災で校舎を焼失するという災厄に見舞われてしまいました。当時の教職員はじめ学校関係者が受けた衝撃は甚大でした。そして、その後、大塚に校地を移し、今に至っています。

展覧会では、焼失した校舎、焼跡に建設された仮校舎、復興を祝う祝賀会などの写真をはじめ、震災当日に校舎から搬出されて焼失を免れた教務・庶務関係の重要書類、当時の様子を克明に記録した日誌などを展示しました。また、震災からの復興事業の中心であった大学本館(1932年竣工)の見どころMAPを作成し、紹介しました。そして、10月13日にはギャラリートーク及び大学本館の見どころツアーを実施しました。展覧会の来場者からは当時の学校関係者の復興にかけた熱意と努力に共感の声が寄せられました。また、多くの卒業生やその関係者にもご来場いただき、新たに大学資料を寄贈いただくこともできました。

展覧会で展示した写真など資料の一部は、「デジタルアーカイブズ」でご覧になることができます。<http://archives.cf.ocha.ac.jp/>



オープンキャンパスを開催しました



模擬授業（中国語圏言語文化コース）

2011年10月1日と2日に学部オープンキャンパス（大学見学会）を開催し、2日間で合わせて約3,000名を超える受験生や保護者の方にご参加いただきました。

全体説明会では、羽入佐和子学長から躍進するお茶大の紹介と受験生へのメッセージ、続いて耳塚寛明教育機構長から多様な入試制度、今年度からスタートした新しい専門教育課程「複数プログ

ラム選択履修制度」、本学独自の奨学金、新学生寮（お茶大SCC）などについての説明が行われました。その後、学部長による学部・学科の説明があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

全体説明会後には、各学科・講座・コース別に、体験授業や在学生による学科説明、研究室ツアーなどが行われ、こちらも大変な盛況で、多くの参加者からの活発な質問が飛び交っていました。



実験説明（化学科）

第62回微音祭を開催しました（微音祭実行委員会より）

今年度も皆様のご協力のお陰で微音祭（2011年11月12日、13日）を無事、終わることができました。ありがとうございました。

今年の微音祭はCOLORFUL ～What's your color?～ のテーマのもと、個性あふれる90以上の参加団体や企画が出そろいました。結果として、1日目6,650人・2日目8,130人、合計14,780人の方にお越しいただき、パンフレットも2日目の中盤で在庫切れになってしまう盛況ぶりでした。

華やかさの一方で、今年3月に起きた震災を受けて、今までにない緊張感のある微音祭になったとも感じております。前日に、参加者全員による避難訓練の実施や来場者への地震発生時の対応についての説明配布が行われるなど、今までにない対応で、大学関係者の皆様・参加団体の皆様には大変なご理解ご協力を賜りまし



実行委員集合！

た。改めて御礼申し上げます。

実行委員内では、既に今年の微音祭に向け準備が始まっております。今年度の反省を活かし、よりよい微音祭を作り上げていく所存です。どうぞ来年度もご協力のほどよろしくお願いします。

微音祭実行委員会広報・映像担当

中山 翠（文教育学部人文科学科2年）



階段装飾



縁日

キャンパス点描